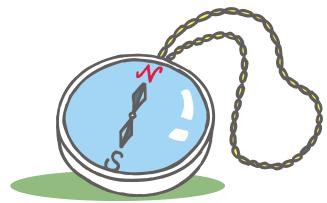


羅針盤



第 26 号 令和3年(2021年)12月13日(月)

◆ 変わらぬ強い気持ち

日本のプロ野球では、セントラル・リーグの霸者である東京ヤクルトスワローズとパシフィック・リーグの霸者であるオリックス・バファローズが、日本一をめざして、日本シリーズでの熱戦を繰り広げたのは、先月末の話です。この両チーム、実は共に昨年度は各リーグで最下位という辛酸を舐めて、どん底から這いあがってリーグ優勝を勝ち取ったチームです。どちらのチームの監督も、選手の意識改革や、チーム力の向上に全力を注ぎ、また、各選手がそれに応えての栄冠となりました。弛まぬ努力の先にこそ、その栄冠があると信じて選手と監督が強い絆で結ばれた結果ではなかったのではないでしょうか。また、一方海外に目を向けると、生徒の皆さんもよく知っているとおり、アメリカのメジャーリーグでは、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手が、アメリカン・リーグのMVP（最優秀選手）に輝きました。周囲からは「二刀流」と呼ばれてはいますが、大谷翔平選手自身は全くと言っていいほど、その意識はなく、一人の野球選手としてピッチャーをしているときがあり、バッターをしているときもあるということだけのようです。ただ、「誰もやったことがないことをやりたい」という強い気持ちは持っていて、「無理だと思わないこと」が一番大事なことであると彼は考えています。シーズンの後半戦までホームラン数ではトップを走り続け、また、ピッチャーとしての勝ち星も9つを数え、前人未到の領域にまで踏み込んだ感があると思われている大谷翔平選手ですが、彼が達成しようとしている夢はまだ半ばのようで、「人生が夢をつくるんじゃない。夢が人生をつくるんだ。」と答える彼は、これから先の自分自身の実力がどれだけ伸びていくのかが何よりも楽しみであると考えています。特別な存在に見える大谷選手ですが、日常の彼の行動からは学ぶべきことが本当にたくさんあります。彼は、人がやりたがらない「トイレ掃除」や「ゴミ拾い」を誰よりも率先して実行しています。これは、花巻東高校野球部佐々木監督が部員に常日頃から課していることであり、慢心を抑え謙虚でいることの大切さを問うた教えです。大谷選手は今でもそのことを実践し、人として成長することが何よりも大事であることを実感しているそうです。



◆ 93歳の最古参が通常運行に復帰

住吉区を縦断するように走る阪堺電車。大阪市と堺市をつなぐ市民の足として、多くの人から慕われ、日常生活に位置づいています。この阪堺電車に、国内最高齢である「モ161形」(161号車)という電車が期間限定ではあるものの、12月2日(木)から運行がスタートし、2月末までの間、阪堺線・上町線の全線での運行が予定されています。「モ161形」は1928年(昭和3年)に運行が開始され、現役で営業運転している電車としては国内最古となります。定期運行からは引退し、貸切専用車両として運用されていますが、半銅製車であるために、木製部分を中心に腐食が進み、大規模となる修繕が必要となつて今年の3月から6月にかけクラウドファンディングによる出資者を募っての修繕工事となり、その完了に伴い今回の運行となったそうです。

